

『デンマークのサイエンス・コミュニケーターが話してくれたこと』

岡橋 毅 (北海道大学 科学技術コミュニケーター養成ユニット 特任助手)

サイエンス・カフェ宣言 (@デンマーク)¹

サイエンスはますます速く進化している。サイエンスは、私たちの身の回りの世界を大きく変えていく可能性を、毎日のように生みだしているように思える。だからこそ、私たちは「どんな研究やテクノロジーを発展させていきたいのか」、そしてそれを「どう利用していくのか」、について議論を続けていくことがとても重要になってきている。

サイエンス・カフェ・コペンハーゲンの目的は、市民が議論するための場を提供することである。私たちは、科学的問題に関する情報を広く伝え、媒介したいと願うとともに、それらがより広い社会的文脈のなかでどのような影響を持つのかということを議論したいと願っている。そうは言っても、私たちは（すでに）科学への関心がある常連の聴衆に対して教え諭すような講義をすることが効果的なコミュニケーションだとは思っていない。サイエンス・カフェの根底にある考え方は、「知識の伝達や仲介は、多くの市民に届き、かつ相互的な関わりが持てるものであるべきだ」というものである。それは、専門家と市民が同じ場所で顔と顔を見合わせ、偏りのない節度をもった雰囲気の中で対話することによって達成される。サイエンス・カフェはその始まりから民主的であり、誰でも参加することができる。

こうした話し合いの枠組みは、党派的なものではなく、領域を超えるものである。サイエンス・カフェのイベントは、インフォーマルで親密な場であるカフェにおいて行われるため、専門家と聴衆の自然な対話を和やかな雰囲気の中ですすめていくことができる。パネラーとして参加する専門家は、自然科学や社会科学、人文科学、アート、そしてカルチャーを代表する人たちが構成される。

うまくいったサイエンス・カフェでの議論は、科学と社会を結ぶ役割を果たしている。一方で、サイエンス・カフェは、アートやカルチャーといった領域に科学の知識をもたらす。もう一方で、サイエンス・カフェによって、科学的な実践に社会的、文化的、美術的な問題がさらに組み込まれるようになる。

サイエンス・カフェで話される内容は、民主的なものであり、どんな人にもアクセス可能である。そして、どんなサイエンス・カフェでも参加費は無料である。

ゲルト・バーリン & エマニュエル・シューラー (翻訳: 岡橋)